

平成18年度

事業報告書

独立行政法人自動車事故対策機構

平成18年度事業報告書

1 独立行政法人自動車事故対策機構の現況

(1) 設立の根拠となる法律

独立行政法人自動車事故対策機構法（平成14年法律第183号）

(2) 主務大臣

国土交通大臣

(3) 沿革

平成14年12月 「独立行政法人自動車事故対策機構法」の成立

平成15年 6月 「独立行政法人自動車事故対策機構法の施行に伴う施行期日等を定める政令」の成立

平成15年10月 自動車事故対策センターを解散し、同センターの一切の権利及び義務を承継した独立行政法人自動車事故対策機構の設立

(4) 独立行政法人自動車事故対策機構の所在地（本部）

東京都千代田区麹町6-1-25 上智麹町ビル

(5) 資本金の状況

13,174百万円

(6) 役員の状況

定数（独立行政法人自動車事故対策機構法第8条）

理事長1人、理事3人、監事2人

氏名、役職、任期及び経歴

氏名	役職	任期	前職
金澤 悟	理事長	1年8ヶ月	国土交通省自動車交通局長
牛島 清	理事	9ヶ月	海上保安庁第六管区海上保安本部長
笠原 孝志	理事	1年6ヶ月	岐阜県警察本部長
清水 勝一	理事	1年	(株)日立オートサービス代表取締役社長
寺岡 宜洋	監事	2年	(株)東洋不動産常務執行役員
吉岡清八郎	監事	1年3ヶ月	独立行政法人 国際協力機構経理部長

2 独立行政法人自動車事故対策機構の事業に関する事項（事業の実施状況）

(1) 運行管理者等指導講習業務

バス、タクシー及びトラックなど自動車運送事業で使用する自動車の運行の安全確保を担当する運行管理者等に安全の確保に必要な管理手法を習得させることを目的として、運行管理の実務や関係法令などについて指導講習を実施した。

18年度実績	受講者数	112千人
	手数料収入	506百万円

（注）手数料収入には、安全マネジメント講習会等手数料が含まれている。

(2) 適性診断業務

バス、タクシー及びトラックなど自動車運送事業に従事する運転者を中心に、自動車の運行の安全を確保するため、安全運転にとって必要な事項について、心理及び生理の両面から各種診断を行い、諸特性を把握して安全運転に役立つようきめ細かな助言・指導を実施した。

18年度実績	受診者数	408千人
	手数料収入	1,296百万円

（注）手数料収入には、附帯業務手数料10百万円が含まれている。

(3) 療護センターの設置・運営業務

自動車事故により、脳損傷を生じ重度の精神神経障害が継続する状態にあるため、治療及び常時の介護を必要とする者のうち、一定の要件に該当する者を入院させ、社会復帰の可能性を追求しつつ適切な治療及び看護を行うための療護センターを設置・運営した。

療護センターの運営実績

療護センター	千葉	東北	岡山	中部
病床数	80	50	50	50
18年度末入院者	76名	45名	49名	47名
18年度委託費	896百万円	530百万円	648百万円	374百万円
事業開始時期	昭59.2 (15年度から運営委託、 17年度から50床→80床に増床)	平元.7 (14年度に30床→50床に増床)	平6.2	平13.7
運営委託先	医療法人社団 誠馨会	財団法人 広南会	社会福祉法人 恩賜財団済生会 支部岡山県 済生会	特定医療法人 厚生会

なお、療護センターの治療特化を図るため、平成11年3月から既入院患者の一般病院への委託を実施している。

委託先	年度末入院者	7人
織本病院	委託費	47百万円

施設の整備

・施設整備費

千葉療護センターにおける陽電子放射断層撮影装置（PET）の整備

818,895千円

(4) 介護料支給業務

自動車事故による脳損傷又は脊髄損傷等により重度の後遺障害が残り、常時介護又は随時の介護を要する状態にある者で一定の要件に該当する者に対して、介護料の支給を実施した。

18年度実績	支給者数	4,312人
	金額	2,790百万円

なお、重度の後遺障害者のうち短期入院を必要とする状態にある者に対して短期入院費用の助成費の支給を実施した。

18年度実績	支給者数	441人
	金額	13百万円

(5) 生活資金貸付業務

交通遺児等貸付

自動車事故の被害者であって生活困窮となっている次の者に対し、被害者保護を増進するため、生活資金の全部又は一部の貸付けを実施した。

- イ 自動車事故により死亡した者の遺族及び重度の後遺障害が残った者の家族である義務教育終了前の児童に対して、無利子貸付を実施（交通遺児等貸付）
- ロ 自動車事故による損害賠償について債務名義を得ていながらその弁済を受けることができない者に、生活資金の一部について年利3%による貸付を実施（不履行判決等貸付）

18年度実績		交通遺児等貸付	不履行判決等貸付
	貸付人員	921人	1人
	貸付額	223百万円	1百万円

一部立替貸付

自動車事故により後遺障害に係る自賠責保険金（共済金）の支払を受けるべき被害者又は保障金の支払を受けるべき被害者であって生活困窮となっている者に対し、保険金又は保障金の支払を受けるまでの間、一定の範囲で生活資金の無利子貸付を実施した。

18年度実績	貸付人員	1人
	貸付額	2百万円

(6) 自動車アセスメント事業

国内で市販されている自動車の安全性能（衝突安全性能、ブレーキ性能、歩行者頭部保護性能）及びチャイルドシートの安全性能について比較試験等による評価を行い、冊子・パンフレットの配布及びホームページへの掲載による情報提供を実施した。

18年度実績	自動車の車種	18車種	事業費
	チャイルドシートの機種	7機種	

3 子会社及び関連会社に関する事項

該当なし

4 関連公益法人に関する事項

該当なし

5 機構が対処すべき課題

中期計画及び年度計画の着実な実施